

平和記念だより 85

2022年10月

◆編集・発行/高松市市民政策局人権啓発課 高松市平和記念館
◆連絡先/高松市松島町一丁目15番1号 たかつみライエ5階
〒760-0068 TEL(087)833-2211 FAX(087)833-2244

教職員のための平和教育講演会

令和4年8月1日(月)、「教職員のための平和教育講演会」を開催しました。新型コロナウイルス感染急拡大のため、高松市立一宮中学校からオンラインで配信という形に変更して行いました。

前半は「高松市平和を願う市民団体協議会語り部部会」の池田^{みのる} さんを講師にお迎えし、高松空襲の体験についてご講演をいただきました。当時、花園国民学校(小学校)2年生、7歳だった池田さん。空襲時、お母さんの声で飛び起き、防空頭巾をかぶって水田に逃げ込み、さらに布団をかぶって火の粉から逃れた様子が詳細に語られました。よくぞ焼夷弾に当たらずに生き延びられたというのが実感だそうです。池田さんのお話には花園や栗林、瓦町など、馴染みの地名が出てきて、本当にこの高松でこんな悲惨な出来事があったのだなあと思い知らされました。

後半は高松市立多肥小学校と高松市立一宮中学校から、それぞれの学校での平和学習の取り組みについて発表していただきました。両校の実践内容は、他の学校の参考となる素晴らしいものでした。最後に平和学習の現状と課題、学校での進め方について、平和記念館の平和学習担当の職員が解説しました。急な変更にもかかわらず、19校、約40名の教職員の皆さん、リモートでのご参加、ありがとうございました。



6月～8月に平和記念事業各企画展を開催しました。

高松空襲展

- 開催場所：高松市平和記念館
- 開催期間：6月25日（土）～7月4日（月）
- 展示内容：高松空襲の被災写真・絵画・資料パネル等



高松が空襲の被害に遭った7月4日を含む期間に、高松空襲の惨状を伝えるために毎年開催。今年度は展示会場を拡張し、写真パネルや絵画、空襲に関する資料に加え、高松空襲に至る年表を掲示したり、手記空襲のDVDを放映したりして、平和意識の一層の高揚を図った。

高松市戦争遺品展

- 開催場所：瓦町 FLAG 2階コンコース
- 開催期間：7月12日（火）～7月18日（月・祝）
- 展示内容：高松空襲と戦争に関する写真・パネル・資料等



高松空襲の被害状況が分かる市街地図、焦土と化した市街地や戦時下の暮らしを写した写真パネルや戦争遺品など66点を展示した。今年度の特集、「町内会・隣組」のコーナーには町内会の旗や設立報告書、隣組回覧板を展示して戦時中の人々の生活について紹介した。

原爆パネル展～SDGs 未来に向かって平和と公正な社会を～

- 開催場所：市民交流プラザ IKŌDE 瓦町展示コーナー
- 開催期間：8月4日（木）～8月10日（水）
- 展示内容：原爆関連資料とSDGsに関する資料



高松市平和を願う市民団体協議会と共催。核兵器廃絶を訴えるため、広島市の被爆体験証言者からの聞き取りをもとに広島市立基町高校の生徒が描いた絵画36点を中心に原爆関連資料を展示した。併せて、ユニセフ資料によりSDGsについて啓発するコーナーを設けた。

証言 高松空襲

あの日わたしは

証言② 太田尚孝さん

空襲が始まり、家族5人でお城の東側の道を北へ向かい、北浜の波止の先に避難した。私の避難袋には子どもの頃の写真や小学校の卒業証書を入れていた。空が明るくなった頃には空襲は終わっていた。防空壕で一緒に亡くなっている家族の死体や大勢の黒焦げの死体があった。自宅に帰ると家は焼けていて、まだ柱がくすぶっていた。私たちは、高松本駅(現 JR 高松駅)から汽車で琴平の親類を頼って行ったが、5人は無理だということで断られた。電車で岡田の知人を訪ねたがそこでも断られ、次に訪ねた岡本の知人宅に温かく迎え入れられてしばらく世話になることになった。

証言者プロフィール

- 当時 中学1年生
- 住所 本町
- 家族 5人
父母、子ども3人
- 家業 父は会社勤め

「あの日わたしは 高松空襲～当時を伝える証言者の声～」(高松空襲を子どもたちに伝える会)証言映像より編集

平和映画☆上映会のお知らせ

平和記念館映像学習室において、次のとおり平和映画を上映します(無料)。

10月の上映「ぼくの防空壕(野坂昭如戦争童話集)」(45分)

日時▶ 開館日の土・日・祝、午後1時～

解説▶ ゆうちゃんがお父さんと一緒に掘った防空壕に避難していると、壁の向こうから出征しているはずのお父さんが現れる。お父さんに連れられて壁を通り抜けるとそこは戦場。ゆうちゃんは、大好きなお父さんと何度も一緒に戦った。野坂昭如さん原作の戦争アニメーション。



11月の上映「紙屋悦子の青春」(111分)

日時▶ 開館日の土・日・祝、午後2時～

解説▶ 敗戦の色濃い昭和20年春、両親を失ったばかりの悦子に見合いの話が持ち上がった。相手は悦子が密かに心を寄せ合っている明石少尉の親友、永与少尉。明石は、自分よりも生き残る可能性が高い永与に、悦子を任せようとしたのだ。そして自らは特攻隊に志願し、間もなく出撃するという。



12月の上映「ガラスのうさぎ」(83分)

日時▶ 開館日の土・日、午後2時～

解説▶ 母と二人の妹の命を奪った東京大空襲。焼け跡から猛火により変形した「ガラスのうさぎ」を掘り出した敏子は、死んでしまった家族のためにも、平和な世界の実現を願いながら、たくましく生きていくことを決意する。多くの人に読み継がれるベストセラーが原作の長編アニメーション映画。



※ 都合により、上映作品・期間等を変更することがあります。

▼今後の行事予定▲

11月

● 高松市戦争遺品等収蔵品巡回展

期日▶ 令和4年11月18日(金)・19日(土)

場所▶ 田村文化センター

内容▶ 市民の皆様から寄贈された戦争遺品等を展示

※ 新型コロナウイルス感染症の拡大などの状況により、開催を中止・延期する場合があります。



収蔵品
紹介75

かいこくにほんすえ
海国日本図絵

寄贈者 野郷 光宏 様

紀元二千六百年を記念して、1940(昭和15)年に作られた日本の領土や歴史を表した図絵。全体の大きさは、縦約 1.5メートル、横約2メートル。中心に日本地図が描かれており、その地図には満州国や、東南アジア一帯も含まれる。地図の周囲には、「神武天皇東征」、「御朱印船」、「威臨丸」、「地中海ニ於ケル我海軍ノ活躍」等の船が描かれている。図絵の下の部分に位置する「帝国海上権力盛衰一覽」なる横長の年表には、右端の神武天皇即位から始まって左端に作成当時最新の出来事が記されており、それに重ねて折れ線で隆盛・衰退を表している。左端は紀元二六〇〇年になっており、折れ線は急上昇で終わる。



寄贈者は書店を営んでいた知人から譲り受け、2016(平成28)年11月、平和記念館が開館する際に寄贈された。

平和記念館「企画展示コーナー」で展示中

編集メモ

ロシアのウクライナ侵攻により、TV等のメディアを通して、戦禍に苦しむ人々の様子を日常的に目にするようになりました。火力による攻撃にさらされ、倒壊した街並みの画像は、当館にも所蔵している空襲後に撮影された「焦土と化した高松」の写真パネルと重なります。来館され、戦争遺品や資料を閲覧する方々の滞在時間も長くなり、戦争への関心の高まりを感じます。平和学習に臨む児童や生徒の顔つきも心なしか真剣さが増したようです。誰もが不穏な情勢に心を騒がせ、平和への願いを強くしている今、「平和な未来を考える」当館の役割は重要だと考えます。



たかまつミライエ

高松市平和記念館（たかまつミライエ5階）

開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日：火曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始12/29～1/3

入館料：無料

▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます） ▲QRコード

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/jinken/keihatsu/heiwa/index.html>



戦時用語解説 67

杉原千畝

1900(明治33)年～1986(昭和61)年

【読み】すぎはらちうね

【分類】人物(日本の外交官)

第二次世界大戦中の1939(昭和14)年、リトアニアの領事代理となり、在任中、ドイツ・ナチスの迫害から逃れてきたユダヤ人難民に自らの判断で日本経由ビザを発行した。寝る間も惜しんでビザを発行し、自身の国外退去の列車が出発するまでそれを続けた。2,000通のビザで6,000人ものユダヤ人が救われたという。外務省の命令に背いた行為であったため、戦後、杉原はその責任を問われて職を辞することとなった。

1985(昭和60)年、イスラエル政府から「諸国民の中の正義の人」として表彰されたこと等により、杉原千畝の功績は広く知られるようになった。

参考：「戦争とくらし百科」

早乙女勝元 監修 日本図書センター

▶次回86号発行は、2023年1月です。